

鋼製支圧板併用RC受圧板アンカー工法

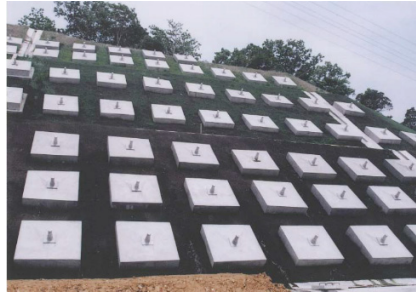
グラスブ
GRASP工法

GRASP工法協会

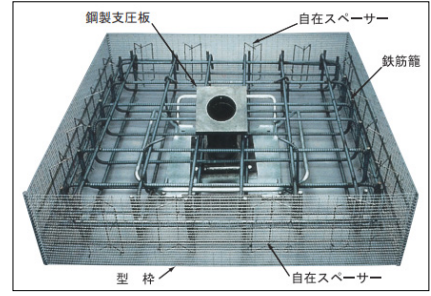
〒107-0052 東京都港区赤坂8-10-37
TEL 050-3703-7321 FAX 050-3156-3569
URL http://www.grasp-assoc.jp/
mail grasp@tec-plan.com



施工例①



施工例②

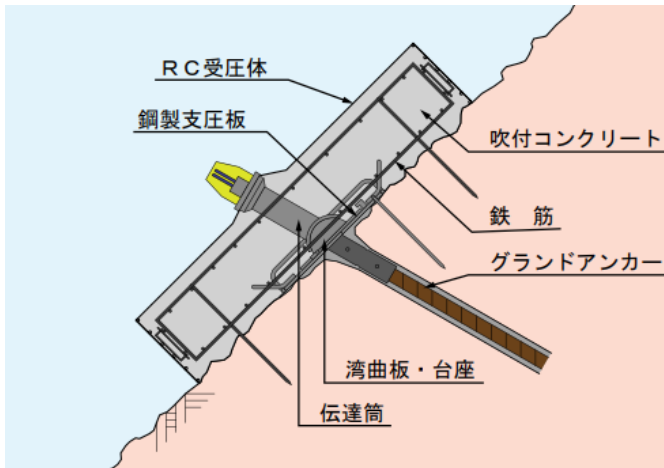


組立完成形

概要

本工法は、崩壊が予想される法面、崩落してしまった法面、自然法面、老朽化した法面、擁壁の補強等の斜面を鋼製支圧板(Steel Bearing Plate)と現場打鉄筋コンクリート製受圧板(Reinforced Concrete Reaction Plate)が一体化した受圧構造物で法面安定を確保するグラウンドアンカー工法である。

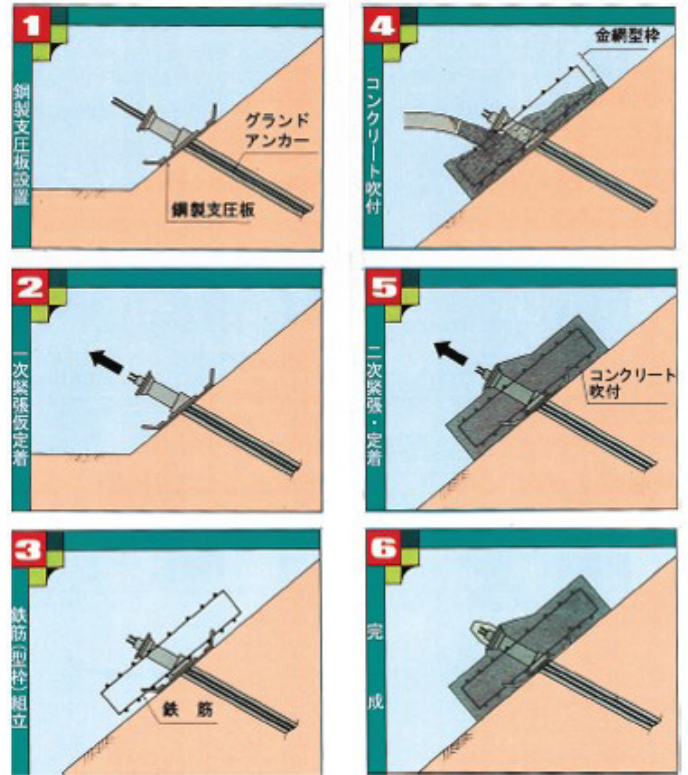
地山切土後速やかに軽量の鋼製支圧板にてアンカー緊張力を導入して地山のゆるみを抑止することで、施工時の安全性が飛躍的に向上する。また、掘削・アンカー削孔・コンクリート吹付等各工種の同時施工ができ、合理的な施工管理と工期短縮が可能である。



特長

1. 二次緊張方式が基本であるため、逆巻工法に有効な工法である。
2. 人力と小型機械での施工が可能のため、狭隘な場所や大型の機械、車両が侵入不可能な現場や高低差のある法面、急傾斜地など、多彩な法面に対応可能である。
3. 現場吹付コンクリートであるため、地山との密着性が良い。
4. 現地条件に合わせた部材が選定できるため、経済的に施工が可能。

施工手順



規格(標準品)

鋼製支圧板

400×400×16～1000×1000×25mm (幅100mm単位にて製作可能)

RC受圧板

1000×1000×300～3000×3000×600mm (幅、厚共100mm単位にて製作可能)